



マンスリーレポート report

report

2006年3月のマンスリーNEWS

■コラム

■2005年飲料市場振り返り

昨年の飲料総市場は微増の101%で終わったようです。夏場は全国的に気温が高く残暑も続いたので飲料市場にとっては良い年だったと言えそうです。メーカー別で見ますと以下の通りです。

メーカー別全国シェア	昨年伸び率	シェア
コカコーラ	101%	32%
サントリーフーズ	102%	19%
キリンビバレッジ	100%	11%
伊藤園	111%	8,7%
アサヒ飲料	110%	7,4%
大塚製薬	98%	5,9%
ダイドードリンコ	101%	4,5%
カルピス飲料	100%	2,7%
サッポロ飲料	100%	2,2%
ポッカ	100%	2,0%
JT飲料	100%	1,9%

この表を見ますと伊藤園とアサヒが売り上げを伸ばしています。伊藤園は「お〜いお茶」と「充実野菜」、アサヒは「三ツ矢」「WONDA」といったところでしょうか。

サントリーについては「伊右衛門」が大きなブランドとして成長し「天然水」が好調のようです。カテゴリー別に見ると緑茶111%、ミネラルウォーター116%と大幅に拡大しています。「コーヒー」「炭酸」は新商品効果で需要の回復が見られ、「機能性・スポーツドリンク」は縮小傾向にあるようです。

自販機の稼働台数ではコカコーラ87万台、サントリー42万台、ダイドー28万台、キリン19万台アサヒ17万台がトップ5となっています。ちなみに神奈川エリアで自販機シェアを見てみると、コカコーラ、サントリー、ダイドーキリン、アサヒの順で全国シェアから比

■コラム

■代筆! 元Livedoor社長日記

このブログ、すごく面白いですよ。とても笑わせてくれるブログです。

<http://blog.livedoor.jp/kougioniwaban/>

2月19日のブログちょっと紹介します。自民党の武部幹事長が拘置所のホリエモンに面会に行く場面です。

武部：いや〜、堀江くん久しぶり。

堀江：なかなか会いに来てくれなかったじゃん、ひどいよ武部幹事長。

武部：おっと！今日はあくまでも“一個人”として面会に来ているから幹事長って呼ばないでくれたまえ。

堀江：ふ〜ん。ところで、イエスマン。「室町時代に観阿弥と世阿弥が作った演劇」の事なんと言おう？

武部：YES

堀江：やだな〜、「能」でしょ。じゃ、「時代劇で悪代官が悪徳な越後屋とかに言う台詞」は？

武部：お主も悪よYES

堀江：やだな〜、「お主も悪よ“のう”」じゃん。ホント、武部っちはNOって言わないな〜面白い人だ。ところで、今日は何の御用？

武部：あのね、君が私の二男に3000万円振り込んだ事になってるんだがそんな事実はないはずだ。それを確認しに来た。

堀江：え〜！振り込みましたよ、確かに。

武部：ほえ〜！振り込んだじゃったの!?なんで？

堀江：だって、南青山にある息子さんの会社ってオーダーメイドのスーツ屋さんでしょ。さすがイタリアからいい生地を輸入してますね。

「改革Tシャツの製作費」で3000万円払いましたよ。

武部：あ、あんなモノが3000万!?量販店で買ったTシャツにプリントしただけなのに...

堀江：え〜！りよ、量販店ですって〜!!じゃ、じゃあ、まさに“改革の安売り”だったわけじゃないですか〜!!

武部：えへっ、気付いちやった？

堀江：そ、そんなモノを3000万円なんて“粉飾

べ、ダイドーの健闘が目立ちます。

自販機オペレーターをしていると、その年の売れるカテゴリーが微妙に変わっていくのを感じとれます。ちなみに昨年の夏は「炭酸」が非常によく売れました。一昨年はとにかく「お茶」！！、その前は機能性飲料（アミノ飲料）でした。

さて今年は・・・？そろそろ果汁系の復活か？

■コラム

■ペプシNEX期待出来ます!

先日、ペプシNEXを試飲いたしました。コココーラのダイエットと比較しての試飲です。驚きました！！今までカロリー0のコーラはたくさんありました。すべて人口甘味料の味が強く、おいしいと思えるものはありませんでしたが、今回のペプシはそのいやな甘味料の味がぜんぜんしません。ペプシレモンをもう少しあっさりさせた感じです。「カロリー0で甘さ控えめ、それでいておいしい」といった感じでしょうか。暑い季節にゴクゴク飲みたいと感じさせます。ペプシコーラは世界中で米国本社の開発商品を販売しています。もちろん日本で販売しているペプシも米国開発商品です。しかし、今回は違います。日本国内向け・日本オリジナルのペプシで、これはペプシ社歴史上初めてのことだそうです。



発売は3月28日予定となっています。皆様ご期待ください。

■コラム

■DYDO「D-1」セット開始しました



いよいよ、ダイドーの新製品コーヒー「D-1」のセットをし始めました。(2月27日現在) このマンスリーNEWSが届くころにはすべての自販機にセットされていると思います。種類は3品で赤のスーパーブレンド、青のファインクリア(微糖タイプ)、白のエスプレッソラテです。当社社員の試飲の反応は様々ですが、私個人的には白のエスプレッソラテが好きです。皆様は何色が好きですか?是非トライしてみてください。

■コラム

■東京アライドロースタースの見学

今回訪問したのは、横浜工場です。東京アライドロースタースとは商社から購入したコーヒー生豆を焙煎する専門の業者です。

ここは、いろいろな飲料メーカーのコーヒーの豆を焙煎していることでも有名です。ちなみに今回ダイドーの「D-1」はファインクリアとエスプレッソラテの豆はすべてここで焙煎されています。またデミタスコーヒーやブレンドオリジナルなどの豆も焙煎しています。このレポートは来月号で詳しくお伝えしていきます。

納品”もいitコだ！！ぼ、ボクの金を返せ〜！！

武部：.....

堀江：何とかいいなよ、“黙秘”すんじゃない！

武部：♪ボンボン ボボボン ボン...

堀江：ヒューマンビートボックスでゴマかそうたってダメ。ボクの大事なお金どうしてくれるんだ！？

武部：.....と、♪ライブドアの株主も言っている〜

堀江：ギッ、ギクッ！そ、そんな便乗サーファーマいたいなヤツラの事なんかどうでもいいんですよ。ボクの、お金返せー！

武部：No

堀江：うう〜、イエスマン武部がこんな切り返しするなんて...そ、“想定外”

<フィクションです>

創業社長が投獄され、毎日マスコミにたたかれながらも、Livedoorのポータルサイトやブログは維持されている。ましてやこのような元自社の社長を皮肉ったブログまで載せている。残された社員さんや技術者ががんばれと思うのは私だけでしょうか？

■コラム

■涙・涙の感動巨編!皆さんにも是非お勧め映画です!



先日、当社担当の税理士事務所の若手M君からこんな事を言われました。「マンスリーニュースで読んだんだけど旅順行ったんですね。それだったら映画「二百三高地」見ましたよね?」「えっ。その映画観てないの〜!。」「だったら絶対観てください。感動の嵐ですよ!なんてたって出演している俳優がすごいんですよ。丹波哲郎・仲代達矢・森繁久弥・三船敏郎・夏目雅子その他一流どころばかりで、またさだまさしの曲が泣かせるんですよ。」ということで早速観ました!この二百三高地の映画を的確に書いてあるコラムを発見しました。Dr町田さんという方のHPです。以下はそのページから引用させていただきました。

二百三高地の激戦

1904年、日露の激戦が始まり、日本は簡単にできると考えていた旅順要塞への攻略に苦しんでいた。なぜそれほどまでにこの要塞を落とさねばならない必要性があったのか。旅順港がロシア海軍の極東における最大の基地であり、海軍からこの要塞を早急に落として欲しいという強い要望があったからである。極東ロシア艦隊は旅順要塞に守られたこの軍港に引き込んだまま、ときおり日本の輸送船団を攻撃し、その存在は後の太平洋戦争における米機動部隊と同じように日本の海上輸送にとっての最大の脅威であった。さらに西からはバルチック艦隊がせまってきた。バルチック艦隊が来る前に何としても極東ロシア艦隊を壊滅させておかねばならなかったのである。そのためにはどうしても旅順要塞を破壊しておく必要があった。要塞がなくなれば旅順港は裸同然となり、ロシア艦隊は炙り出されて出てくる。出てきさえ



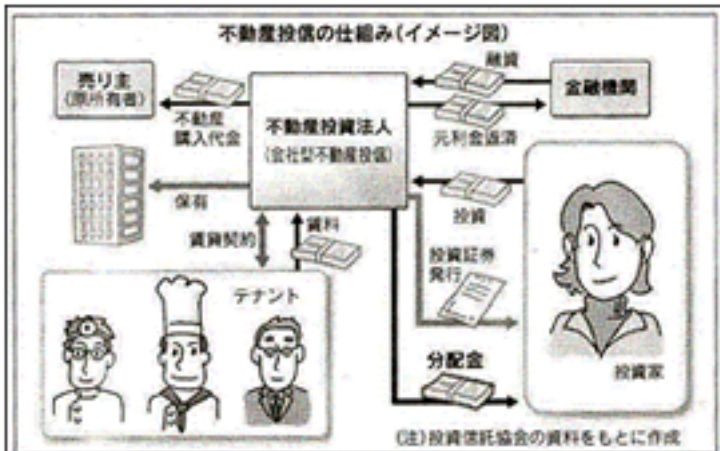
...

■コラム

■ REIT(不動産ファンド)の不思議

いきなり変な題名のコラムです。このことを今月号では書いていきたと思います。

まず、REITの仕組みです。



分配金利回りの計算式は以下の通り。

$$\text{予想分配利回り} = (\text{予想分配金} \times \text{決算回数}) \div \text{価格}$$

まず、REITですがご存知ない方のために説明しておきます。REIT(不動産ファンド)とはたくさんの投資家から資金を集めて「不動産」を購入し、そこから生じる賃料や売却益を投資家に配当(正確には分配)する商品です。正確には、上の絵のように不動産を運用する法人に投資すると言ったほうが良いでしょう。個別物件の不動産投資ではまとまった資金が必要が、REITならば少額から購入でき、複数の物件に投資できるのでリスク分散にもなるという訳です。REITは新規に証券取引所に上場するときや投資証券を追加発行するときには特定の証券会社に扱いが限られるが、それ以外は株と同様に広く証券会社を通じて売買できます。現在は29のREITが東京証券取引に上場しています。

さてこのREITの予想利回りですが、新聞などを見ると大手不動産マネジメント業者もこぞって年リターンの数字を大きく掲げ、不動産に投資する安心な高利回りファンドをうたっています。でもなんかちょっと変じゃないかな?と思うのです。ファンドにすることによっていきなり5%~7%になっちゃう?上記の計算式によると不動産の価格が安いときに買うほど利回りは高くなります。現在東京都心の地価はかなり高くなっています。簡単に高利回りを維持するのはかなり難しいと思えます。それでも投資するほうとしてみれば、預貯金などから比べればまだ魅力的な水準かもしれません。ところで、皆さんが高い利益を生み出す土地を持っていたらどうしますか?自分で運用する人が多いと思います。実はファンドはマジックを使えるのです。それは例えばビルの償却の数字をいじったり、修繕部分を資産に回したり先延ば

すればこっちのもの。二百三高地は旅順の要塞群中の要塞の一つであった。(二百三の名前は海拔203mから取られている)海軍は旅順要塞全体の陥落よりはまずこの二百三高地のみの陥落を必要としたのであった。ここを落としさえすれば、ここからの砲撃で旅順港に退避している極東ロシア艦隊を砲撃できたからである。この旅順要塞は結局バルチック艦隊来航前に陥落し、極東ロシア艦隊は壊滅して日本にとってはバン万歳となったわけだが、この旅順攻略戦だけで日本側は死者約一万数千人、損害率46%(要するに戦った兵の半数が死んだか負傷した)という莫大な犠牲者を出した。そして数十年後に映画にまでなるほどに、深く日本人の心に深い傷を残したのである。後の太平洋戦争があまりにも悲惨だったので、今ではこの二百三高地の悲劇を知る人はあまりいないだろうが、戦前の日本人には二百三高地という名前は現代人の「ヒロシマ・ナガサキ」に近い感覚であったにちがいない。

(無論戦争に勝った負けたの違いはあったろうが)

無能だった司令部

この異常な戦死傷者の原因はひとえに司令部の無能による。軍司令官はいうまでもなく乃木希典、そして参謀長が伊地知幸介である。乃木は長州、伊地知は薩摩出身である。伊地知はまた砲術の専門家として知られていた。日露戦争当時はまだ薩長閥が歴然とあり、この人事は能力よりは派閥均衡が重視されたものであったといわれている。それにしてもこの乃木・伊地知のコンビは旧日本軍においては最悪のコンビであったろう。太平洋戦争の時でさえ、こんなひどい人事はなかったと思う。伊地知は砲術の専門家としての自負が攻城戦を一つの作戦に固執させ、いたずらに砲撃→白兵戦というパターンを繰り返した。さらに作戦目的を二百三高地に限局せず、旅順要塞全般の攻撃を行った。このために攻撃は広く薄いものとなり、いたずらに犠牲者を増やすのみとなったのである。乃木は乃木でこの参謀長の拙劣なやり方を注意しようともせず、ただ拱手しているだけであった。かわいそうなのはこんな日本最低の司令部に使われた兵達である。トップがバカだといかに下のものは大変なことになるかの見本がこの乃木第三軍である。このバカコンビのもとで一万数千人の兵が死んだ。その多くは死ななくてもよかったはずの命である。

天才：児玉源太郎

映画「二百三高地」のクライマックスはこのていたらくを見かねた児玉が乃木に会いに生き、その指揮権を乃木との合意のもとで剥奪する場面である。児玉は伊地知を叱責、直ちに海軍砲の配置の転換を命令する。専門家の立場から伊地知がそんなことは不可能である反対しても「これは命令じゃ」(映画の中の丹波哲郎のセリフ)の一言で強引にやらせてしまった。専門家が不可能と言ったケースでも素人の児玉がやれ、と言ったらこの配置転換はできたのである。このあたり、深くはあるが狭い範囲の知識しかない専門家よりも児玉の洞察力の方がはるかに上だったのである。天才児玉源太郎のすごいことよ!あれほど難攻不落であった旅順要塞は児玉の作戦によりあれよあれよというまに落ちていった。児玉が来なければおそらく旅順要塞は陥落せず、したがって極東ロシア艦隊はバルチック艦隊来航まで健在であったろう。さすればあの日本海海戦も日本が勝てたかどうかはわからない。さらに極東ロシア艦隊は日本海の制海権を握り続け、日本の陸上戦闘もまた苦戦を強いられたであろう。児玉というひとりの天才が日本全体を救ったと言ったらいいすぎであろうか。

屍(しかばね)の上に繁栄する日本

ししたりすれば、とりあえず直近の数字は良く見えま
す。実は不動産というのは数字を上げることは簡単に
出来るのです。鉄筋鉄骨のビルの償却が50年、いえ40年後
どうなっているのでしょうか？電気、水道、始め全てが
老朽化してどうしようもない状態になり、巨大な修繕費が
発生します。そして、そんな古いビルに誰がテナントで
入るでしょうか。そんな未来費用やマイナスをファンド
は計上しません。あくまで今テナントが満室の状態
で数字を出し、投資家にお金を出させて手数料さえ稼げば
いいのですから。REITの中に入っている商品が陳腐化
し始めるとたちまちリターンは落ちていくことは目に見
えています。その昔なら土地の価格が上がりキャピタル
ゲインもあったでしょうが、日本の今後の状況では考え
にくいのです。今行われているREIT同士で物件に上乗
せしあって、転がし合うのも長続きはしません。所詮、
実需や実態に即していないのですから。REIT、それ
は、一般投資家の間のババ抜きゲームのようなもので
す。そう問題はババをいつ引くかわからないことな
のです。個人はいつも後回しになりますから注意が必要だ
と思います。

なんかこれって、姉齒の耐震疑惑やホリエモンの事件に
似ているな～・・・・・・・・

■コラム

■トリノオリンピックを見て思ったこと

とても印象的だったのは、荒川選手の演技でしたが
それよりも印象的だった場面がありました。それは
荒川選手を応援しているプリンスホテルの社員さん
達です。

久々に西武グループからスターが誕生しました。西
武といえば、刑事事件を起こす前はたくさんのオリ
ンピック選手を育てていたという印象が深いです。
雪印もそういえば問題を起こす前はスキージャンプ
の選手を育てていました。今、企業が問題を起こす
と社会やマスコミから袋叩きにあいます。今回はオ
リンピックで金メダルを獲った荒川選手を育てたプ
リンスホテルという企業をもっと称えてもいいと思
うのですが・・・・・・・・

■コラム

■アークルホームページの紹介です

毎月、お客様に送付しているこのマンスリーNEWS
ですが、過去のマンスリーNEWSはすべてHPに載せ
てありますので是非ご覧ください。また、HP版はカ
ラーですので大変見やすいと思います。

<http://www.arclu.com>

今から百年前、日本は存続の危機を賭けてロシア
と戦った。からくも勝利はしたが、この二百三高
地をはじめとして膨大は犠牲者をだした。司馬遼
太郎は「もし日露戦争を避けて日本がロシアの属
国となっていたら私の名前はなんとかスキーにな
っていたろう」と書いているが、あの当時の日本
人は日本という国を守るために莫大な犠牲者をも
いとわずに大国ロシアと戦ったのである。それを
平和ボケの現代日本人が「日露戦争は侵略戦争で
ある」の一言でかたずけてしまうのはあんまりで
はないか。今でもポーランド人たちはこの大ロシ
アと果敢に戦って勝利した国として日本を尊敬し
ているという。彼ら東欧の国は古来、ロシアから
の侵略され続けてきた。そのロシアを東洋の小国
日本が破ったのである。しかし、その影には何万
もの戦死者がいた。日本は勝ったが、大切な跡取
息子を失った親、夫を失った妻、夏目雅子よう
に恋人を失った女たちがいた。さらに運良く生き
て戦場から帰還しても、障害者として一生生きて
いかなければならないような人たちもたくさんい
ただろう。それらの人たちへの国家補償などあ
ったのだろうか。今の日本の繁栄は先輩達から脈々
と受け継がれてきた莫大な遺産のもとに成り立っ
ている。二百三高地の激戦で死んだ多くの日本人
の命もまた私達現代人の大切な遺産の一つであ
ろう。

今月は以上です。又、来月号もご期待ください。

■本年度のマンスリーNEWS

➡	2006.02	アークル マンスリーNEWS
➡	2006.01	アークル マンスリーNEWS

■マンスリーNEWS アーカイブ

➡	最新	マンスリーNEWS トップページ
➡	2005年度	2005年のマンスリーNEWS アーカイブ
➡	2004年度	2004年のマンスリーNEWS アーカイブ